

～ 福祉のきっかけ ～

私が福祉の仕事に携わるようになったのは5年前。周りの先輩方に比べたらまだまだ素人。今回は私が福祉の道を目指したきっかけは何か？と考えてみました。最初に思い浮かんだのはかつて祖母が話してくれた自身の仕事の話でした。私が27歳の時、当時はコンビニでアルバイト生活。俗にいうフリーターでした。特に資格や能力もない私は自分に自信が持てず時間のみ進んでいく毎日。ある日、夜勤明けの祖母がソファで好きなビールを飲んでいました。夜勤明けでビール？しかも帰宅して早々に。どんな仕事をしているのか気になり聞いてみました。おばあちゃんは何の仕事をしているの？祖母はこう答えました。「叩かれたり、引っ掻かれたり、暴れられたりするけれど人の人生のお手伝いをする仕事」と。まるでクイズを出されたかのような回答。さらに詳しく聞き介護職という事がわかりました。「介護職は特別な資格がなくてもできる。身体的にも精神的にも辛い時があるけれど、たくさん感謝される仕事だよ」と。この言葉が当時の自分の背中を押してくれたような気がします。それからは祖母の背中を追うように介護職へ就職し無事にフリーターを卒業しました。

人と話すのが好きな私はデイサービスから働き始めステップアップの為に特別養護老人ホームへ転職することに。ところがここで祖母の言う「精神的に辛い場面」にぶつかりました。新しく入居されたKさんという方がいました。入居された初日はもちろん1週間、1か月、その先も精神的に不安になっている方は少なくありません。入居初日Kさんが私にこう言いました。「私はいつ帰れるの？」この問いに喉が詰まりすぐには返事ができませんでした。基本的にご自宅に帰られる入居者の方はおらず、一生を終えるのはここだと分かっていたからです。でも真実を伝えてもKさんを不穏にさせてしまう。そう思った私は、来週には帰れるかな？年が変わったら、かな？などと聞かれる度に毎回平気で嘘をつくようになりました。嘘も方便と言いますがこの嘘こそが私を苦しめていきました。結果的に私は退職の道を選んでしまったのです。ですが退職した後でも、福祉への情熱はなぜか消えていませんでした。

時は経ち、31歳。二人の娘がいる私の家(マンション)はみるみるうちにおもちゃの山に。このままでは将来的に寝床すらなくなるのでは…と思い引っ越しを決断。スマホで検索していると我孫子市にある新築の最後の一棟が売れ残っている。とりあえず下見だけでもと向かいました。終わってみればローン審査の書類に記入している自分。とんとん拍子に物事が進み物件を購入。わずか1か月ほどの事でした。我孫子市民として生きていく事を決めた瞬間でもありました。どうせなら仕事も我孫子市内で探したい。福祉の仕事でもう一度現場に立ちたい。その気持ちには嘘を付けずに3か月。やっとの思いで出会えたのがつくばね会でした。障害の分野は未経験。不安もありつつ実際に働いてみると利用者の方が毎日生き生き、キラキラしているではありませんか！福祉の世界の広さを改めて実感しました。

引っ越しを機に祖母に会える時間は以前より少なくなりました。祖母からはひ孫の顔を見せに来なさいと連絡が入る日々。孫の私には会いたくないのかい？素直に言うのは恥ずかしいのでここでお礼を言わせてください。おばあちゃんには私の人生のお手伝いをしてもらいました。本当にありがとう。
PS 祖母は現在も現役の介護福祉士です。 (おおばん 平間 聖佳)

編集後記

家では徳島の友人が送ってくれたスダチを育て、夏はアゲハチョウの幼虫に占領されます。先日は15匹が確認でき、葉がなくなっていました。どこで孵化するのやら、ある日忽然と消えるのです。小さな生きものにふれる楽しさは子どもごろの夏休みの日々と重なりますね。みなさんも虫を見かけたら、そっと逃がしてあげましょう。苦手な方は悲鳴をあげれば得意な人が助けてくれるはず。 (おおばん 広瀬 美紀)

1994年8月24日 第三郵便物承認
2024年8月6日発行（毎月12回2・4・6・8の日）
通巻第5518号
発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会
川口市芝新町15の9 頒価 50円
郵便振替 001000-811223

～ そよ風の ように 街に 出よう ～

S S T L

つくばね通信



代表 千葉県我孫子市都部新田37-2

TEL 04-7187-1944

FAX 04-7187-1947

HP <http://tukubanekai.sakura.ne.jp/>

編集・発行：けやき社会センター・はるか

おおばん・ふれんず・楓・サポートセンターけやき

去る6月8日（土）南新木沖田公園にて「第1回つくばね そよ風フェスタ」を開催いたしました。何しろ初めて開催するお祭りでしたので開催までの準備が色々大変でした。まずはじめに、ご協力を頂いた方々にこの場をお借りし感謝申し上げます。備品借用では、中央学院高等学校様（テント・重し）アキール様（テーブル・イス）我孫子中学校様（テント）あらかき園様（三角コーン・机）みずき様（トラック・机）我孫子市・千葉県（うなきちさん・チーバくん）ボランティアでは、りょうくん（大道芸パフォーマンス）湖北新木地区社協様（昔あそび）我孫子市青少年相談員様（モルック・ポッチャ・皿回し）バルーンアートの会様、中央学院高等学校様・中央学院大学様・ボランティア市民活動相談窓口てとりあ様・公園緑地課様。福祉施設模擬店出店ではオリーブ様・i工房様・みずき様・ウイング様・エール我孫子様・みんなの広場「風」様・すまいる様・わかたけ社会センター様・アビシエ b 様・むつぼし様・我孫子市福祉連絡会様。皆様本当にありがとうございました。

当日は絶好の天気にも恵まれ予想を超える大盛況でした。梅雨の時期で天気も心配でしたし、南新木の公園にどれだけ人が集まってくれるのか本当に心配でした。しかし各事業所の模擬店はどこも完売できたようですし、子どもたちに喜んでもらえるようにと、企画したものもとても良かったようでした。「新木にこんなに子どもがいるんだ。地域のこどもが全員集まったんじゃないか？」と思うくらい人が来てくれました。また、各事業所の利用者も家族も知り合いもとてもたくさん来てくれました。そしてとても楽しんでくれていました。

法人として、このような「つくばねらしいアットホームなお祭り」を開催しイベントを通して、地域のかたと関わることで、共に楽しみ、知り合って、障害者への理解が進み、誤解や偏見が解消され、障害の有無なんて関係ない、誰もがその人らしく楽しい生活が住み慣れた地域で暮らせるように。共生社会（インクルーシブ社会）の実現の一助になるように。また法人職員が丸丸となって取り組むことによって協力し、充実感・達成感を得られるように。

語り尽くせない、いろいろな思いをこめて開催された「そよ風フェスタ 2024」でした。最後に一言「来年も楽しく開催できますように。」 (理事長 志賀 幸夫)

地震災害を目の当たりにして

能登半島地震が発生してから、4カ月後の5月13日～16日までの4日間、私は、石川県能登町にある障害者支援施設に災害派遣ボランティアとして派遣されました。上野駅を出発し、金沢駅に着く頃、車窓からブルーシートがかけられている家々が散見されるようになった時、一気に身が引き締まる思いになったことを昨日のこのように思い出します。さらに、現地に近づくにつれ、特に瓦屋根の住宅が全半壊している光景が増え、あちこちで段差や亀裂が走る道路を目にしなが、白いプレハブの仮設住宅が何棟も立ち並ぶ光景が目に入ってくると、本当に来たのだと緊張感が増してきました。一見、観光に来たかのような自然豊かで、のどかな景色が広がる一方で、山肌が崩れた山崩れの痕など地震災害の恐ろしさを初めて目の当たりにしました。

派遣された障害者支援施設は、海の近くにありましたが、高台にあったため、津波の影響はありませんでした。ただ、地震の影響で、施設内の天井の一部が崩落し、至る所にひび割れの箇所がありました。

ボランティアの内容としては、食事介助、作業活動支援、買い物支援、施設内及びグループホーム内の清掃、トイレ介助、歩行訓練等を行いました。震災後、多くの職員が退職せざるを得なかった中でのボランティアでした。支援の合間に現地職員に被災時の状況を伺うと、地震が起きた直後から水が出なくなった（そのため福祉避難所としては機能しなかった…）ことから、近隣の高齢者施設にマイクロバスで移動し水・食料・暖を取り、凌いだそうです。職員の皆さん、口をそろえて「水のありがたみ」がよくわかったと仰っていました。



今回、災害派遣ボランティアに参加したことで、テレビで見るよりも地震災害の現状を肌で感じ、防災への意識がより一層高まりました。（ボランティア後、防災士の資格を取得しました。）日が経つにつれ、意識が低くなるだろうと思いましたが、4日間と短い日数であっても、地震災害の脅威を見聞きしたことについて、意識が低くなるはずがないほどの経験をしたと思っています。地震災害に、人間はなす術がありませんが、それでも防災を常日頃から意識して準備しておけば防げることもあるのではないかと思います。

私はこのボランティアで経験したことを無駄にたくありません。次はわが身だと考え、防災に対する啓発活動、震災が起きてもすぐに復旧できる体制作り等を法人内、そして、地域の方を巻き込んで行っていきたいと思います。

最後に、今後も災害派遣ボランティアには登録し、自分にできることは小さなことかもしれませんが、被災した方たちの力になれるよう行動していきたいと思っています。

（けやき社会センター 小嶋 史樹）

みんなで楽しく運動しよう！！

けやき社会センターでは今年度より、更なる余暇活動の充実を目標にしており、その中の一つとして利用者の皆さんに運動をする機会を提供したいと考えていました。

そこで6月より我孫子市民体育館をお借りして、参加希望された利用者の方々とボッチャやフリスビー、バドミントンにフラフープ、鬼ごっこなどなど…様々な運動を行いました。

当初は「運動う～…疲れるからなあ～」「暑いから…いい(嫌だ)…」というように面倒くさい、やりたくないという言葉がチラホラと聞かれていたのでどうかなあ～と心配していました。しかし、いざ体育館内アリーナに入ると皆さん今まで我慢していたものが解き放たれたかのようにそれぞれがラケットやフリスビー等の道具を手に取り、思い思いに遊び始めました。

普段はゆっくりのんびりした姿を見せている方がビーチボールで強烈アタック！足が速いと噂は聞いていた方が鬼ごっこでロケットダッシュを決めて職員から余裕で逃げ切る！あまり体を動かすことが好きではない方がフットサルで針に糸を通すかのような正確無比なパスを見せる！というようにけやきでは見ることの出来ない利用者の皆さんの姿をたくさん見ることが出来て、とても新鮮で有意義な楽しい時間を過ごすことが出来ました。

まだまだ暑さが続くので熱中症対策を徹底し、これからも利用者の皆さんと楽しい時間を過ごしていけるよう様々な活動を提供していきたいと思っています。



（けやき社会センター 吉田 寛貴）

はるか春の大 BBQ 祭り

5月18日（土）、夏本番を前にしても汗ばむ陽気の中、はるかでBBQを開催致しました。肉を焼いては食べ、焼いては食べ…焼く人も食べる人も大忙しです。デザートにはあま～い焼きバナナに舌鼓。食べ終わったらじゃんけん大会や、トランプゲームなどをして大盛り上がり♪お腹も心もいっぱいの良いイベントになりました。普段は別々に作業をされている方々が、一つの行事を通して同じ時間を一緒に楽しむ様子に、職員としても大変心温まりました。これからも毎年恒例のイベントにしていきたいと思っています。

（はるか 植原 大輔）



人間の多様性とは

福祉職員として思う「津久井やまゆり園事件」について。
この事件を調べていくと「意思の疎通がとれない…」という言葉は何度も目にします。私はこの言葉に納得できません。それはこの言葉はとても主観的な考えだと思ふからです。

私は以前、訪問美容の仕事をしていました。訪問美容というのは美容室や床屋へ行くことが難しくなってしまった方々の施設や在宅へ行き、施術する仕事です。高齢者施設から障がい者の入所施設、精神病院などと様々な施設を回っていました。その中で脳疾患の寝たきりの方が多い病棟に毎月髪を切りに行っていました。そこで施術する中で意思疎通がとれた！と思える経験は正直一度もありませんでした。目は開いているけれど見えているのかもわからない、声をかけても反応はない、髪型は本人ではなくご家族の希望する髪型。施術する空間は私たちからの声掛けはあるものの機械音が一定に鳴り響くだけのとても静かな空間でした。身体の負担の少ない範囲で気持ちよくサッパリできるよう施術をしていたのを鮮明に覚えています。当時私は美容師として関わっていた為、ほんの一部の様子しかその方々のことは分かりません。しかし支援員として毎日関わっていればちょっとした変化に気づける自信はあると言いたいです。当時様々な方と出会う中で、「私も何かのきっかけで支援してもらおう側になる。明日は我が身」という結論が一つでました。私が相手の考える意思疎通が出来なくなってしまう場合、社会に不必要だと判断されてしまうのか…と考えた時、私が存在している事に意味があってほしいと願います。しかし私の考える「人に迷惑をかけたくない」という矛盾も生まれます。ただその価値観を人が決めつけ、勝手に人生を終わらせていいなんて事は決してありません。

「多様性の時代だから」

という発言をほとんどの方が耳にしたことがあるのではないのでしょうか

人間の多様性とは…

人間には個性や特性があって、その違い（性別や人種、国籍、年齢、障がいの有無、性的指向、宗教、思想、学歴、価値観など）をお互いに認め合い、それを活かすことで世の中が元気になり社会が発展していくという考え方

多様性の第一歩として、一人ひとりの考え方の違いに気づくこととあります。事件を調べていくと様々な意見を目にするようになります。その中で共感できるものもあれば、理解に苦しむものが多数あったのも事実でした。それと共に良い言葉に思っていた“多様性”が恐ろしい言葉でもあるように思えてきました。何でも受け入れられるべき、発言も自由であるべきというような風潮があるように感じたからです。

多様性だから今回の事件は許されるのかと言えば、それは絶対に間違っています。自分の価値観を強要する行為は決して多様性とは言えません。他人を理解しようとする姿勢のことであり、理解できるのか出来ないのかを考える行為も含まれるのではないかと思います。

私は支援者として障がいをもった方々の通う施設に勤めていますが、利用者の皆さんには何度も助けられました。困っている！と気づいて助けてくれることもあれば、そんなつもりなく自然に助けられていることもよくあります。私は利用者みなさんと対等で認め合える関係を理想と考えます。これからも一人ひとりを知ろうと努力する事、そして私という人間も知ってもらう事を大切に一緒に過ごしていきたいです。

(けやき社会センター 三崎 彩夏)

おおぼん「食研博2024成田」レポート

弁当班で仕入れを行っている「日本食研」よりご招待いただき、6/11・12・13の3日間に分かれ「食研博2024成田」という企業向けの試食会に参加してきました。今回は各チームからの感想をレポートさせていただきます。

試食会では日本食研の社員の方が調理の仕方など実演していると、真剣に見聞きしている人もいれば職員と一緒に試食し「これはおおぼんでも使えそう」と話している姿が見られました。工場見学では大型機械での作業工程が見られ、体験できない経験ができ皆嬉しそうにしていました。(吉田・植木・住岡)

試食はどれも美味しく、弁当に取り入れたいと思う商品が多くあり、メニューの見直しの際に積極的に取り入れ、多くのお客様に届けていきたいと感じました。すでにおおぼんの弁当で使用している商品の調理方法なども学ぶ機会となり、日々の弁当作りに活かしていきたいです。(竹内・広瀬・平間)

日本食研の社員の方の商品に対する愛情や、商品を使用する顧客側への対応が丁寧で感動しました。試食会の熱意に答えるべく「これ美味しいですね！」と感想を伝えている利用者や職員の姿が見られ、私たちはたくさんの方の思いが詰まった商品で弁当を作っているのだなと感慨深い気持ちになりました。

(栗原・宮澤・山岸)



ふれんず通信～ふれんず BBQの様子～



4月から少し時間が経ち、ふれんずに新しく入った子供たちも徐々に慣れてきた様子で、利用者や職員の名前を少しずつ覚えてくださっているように思います。

私もこの4月、2年ぶりにふれんずに戻ってきましたが、その時まだ小さかった子もすっかりお兄さんお姉さんになっていて、子供たちの成長スピードに驚かされる毎日です。

先日、けやき社会センターの敷地をお借りしてふれんず BBQを行いました。これまで法人内事業所の方々と合同で行うことはありましたが、ふれんずだけの開催は初めてです。当日は土曜日だったので朝からお迎えにまわっていたのですが、保護者の方から「うちの子は今日のBBQをととても楽しみにしていたんですよ！」といったお声をたくさん頂戴しました。

BBQメニューはメインのお肉に加え、ソーセージ、焼きそば、ポテトサラダ、デザートとしてアイスをご用意しました。炭火で焼いたお肉はととても美味しく、皆さんもりもり召し上がっていました。焼きそばやポテトサラダもたくさん食べてくださり、終わる頃にはお皿も空っぽになっていました。

今回ふれんずとして初めての開催だったこともあり、片付けの段取りなど反省点もありましたが、(なんと日中一時の利用者の方々が片付けを手伝ってくれました！本当にありがとうございました！)「お肉美味しかった!」「また食べたい!」といった声を多くいただくことができました。

次の機会があれば今回参加できなかった方にも参加していただき、また企画してみたいと思います。

(ふれんず 中林 佑樹)



そよ風フェスタ



2023年9月、つくばね会である実行委員会が発足しました。つくばね会が主催し、大きく賑やかな、地域の方みんなに来ていただけるお祭りを企画する委員会でした。

何分会場を借りてお祭りをするなど、職員達にとって初めての事です。どんなことをするのか、誰に向けてするのか、何のためにするのか。全てがゼロからの話し合いです。

そもそもなぜお祭りを企画するに至ったのかと申しますと、そこには障害理解の促進、そして共生社会の実現を目指す想いがありました。こう書きますと手作りのお祭りに似つかわしくない大きな目標のようですが、我孫子市においてそれらをより進めていく一端を担いたいと始めた企画でした。

お祭りの名前すらまだ決まっていません。実行委員でも意見を出し合いましたが、結局全職員から募集することにしました。素敵な候補がたくさん挙げられ、そのうちのひとつが「そよ風フェスタ」でした。1979年から2017年に発行されてきた障害者問題総合誌が「そよ風のように街に出よう」という誌名で、つくばね会はこの言葉をキャッチフレーズのように使ってきました。その由来から共生社会に対する想いを感じられますし、語感も爽やか。お祭りの名前は「そよ風フェスタ」に決定しました。

話し合いをするうえで、色々なバザーを参考にさせていただきました。コロナ禍前に、つくばね会利用者の保護者の方々がけやき社会センターで開いてくださった夏祭りも思い出しつつ、必要な役割や備品の準備を進めます。

そんな中直面する大きな壁。「全て自前で用意はできない」。模擬店の出店、テントや机の用意、遊びコーナー、利用者見守りなど、多岐に渡ってつくばね会の人員や持ち物だけではカバーできない事態になりました。一つずつ、お力を借りたいと各所へお願いしてみたところ、表紙にも理事長が書かせていただきましたが、本当にたくさんの方々が手を差し伸べてくださいました。私も実行委員として準備に携わりましたが、「こんな素人だらけのお祭りが成功するとしたら、「任せて」と言ってくれる頼もしい方々のおかげだ」と強く思ったのを覚えています。

実行委員以外のつくばね会職員達も、精一杯準備してきました。

実行委員以外のつくばね会職員達も、精一杯準備してきました。



当日、利用者が安全かつ存分に楽しめるように、またお祭りスタッフとしても人員を送れるように、職員体制を何度も話し合いました。お祭り前日には全ての事業所から準備要員が出され、利用者支援を残った職員に託して汗をかきかき会場設営を行ないました。

この時、人はどれくらい来るだろうか、滞りなく進むだろうか、期待半分心配半分といった気持ちでした。

そして、そよ風フェスタ当日、天気は晴天に恵まれ、早朝から実行委員による準備がはじまりました。

開会宣言と同時に沢山の方がご来場されました。ご来場されたご近所のお子様達が、とても楽しそうな様子で「そよ風に揺られているパーパーフラワーのエントランス」を通り抜けていきました。こちらは、当法人の利用者さん達が連日一生懸命に制作に取り組んでいただいたエントランスです。目の前で記念撮影する方も沢山いて、大成功でした。



会場内様子は、本部受付にてクイズラリー用紙を受け取ったお子様が必死にクイズの場所を探し、答えを考えている姿も大変微笑ましく、企画していて良かったと素直に思いました。想定していた以上に来ていただき、クイズラリー用紙が足らなくなるといったアクシデントも…。嬉しい悲鳴ですね。お昼頃、会場内は大賑わいになっており、法人スタッフの至らぬ点多々あったと思いますが、ご来場者様のご協力もあり、大いに盛り上がる事ができていました。会場内、各出店ブースには列をなし大繁盛。お子様達は、将棋に輪投げ、モルック・ポッチャと笑い声が途切れない素敵な空間になっていました。そこに登場したチーバくんとうなぎちさん。有名なゆるキャラだけあって注目の的になり、会場内の盛り上がりは一気に頂点へ。一緒に記念撮影する人もいれば、追いかけ回し、チーバくん、うなぎちさんがタジタジな事態にも。



おおよそ4~500人のご来場者様が来られ、事故等もなく大盛況のまま終盤まで迎え、ラストは理事長による閉会宣言にて無事にお祭りを終えることが出来ました。ご協力いただいた皆様、ご来場者の皆様、当法人の祭事に参加いただき、ありがとうございました。

(本部/実行委員 志小田 智美 鈴木 健之)



次年度も開催予定です！ お楽しみに！